

(5) その他の調査関係資料

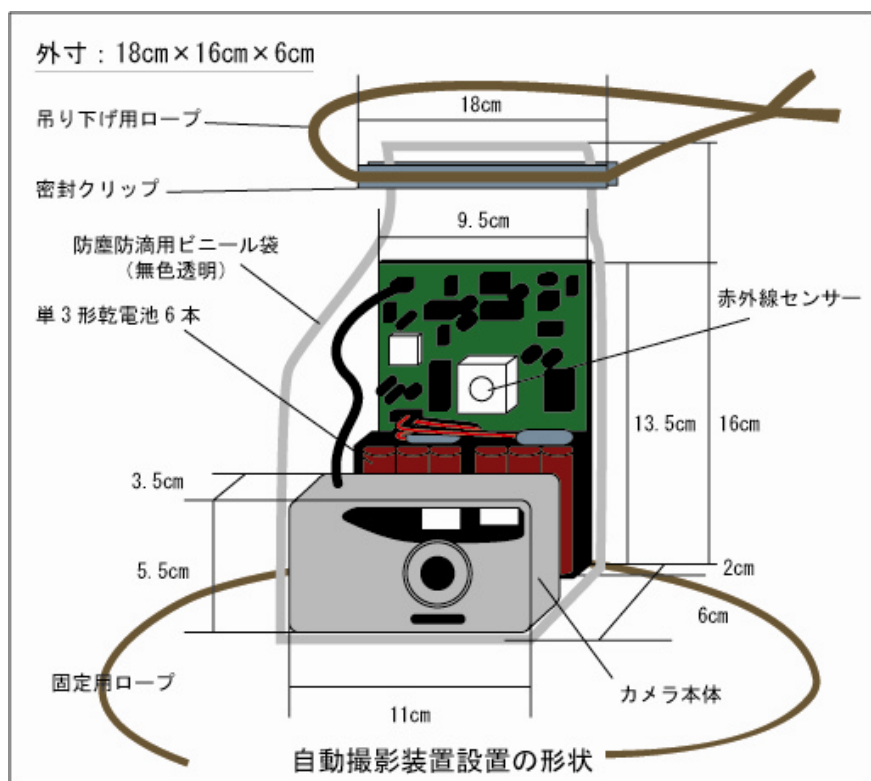
5 - 1 自動撮影装置の概要

自動撮影装置（カメラ）について（装置は2種類使用）

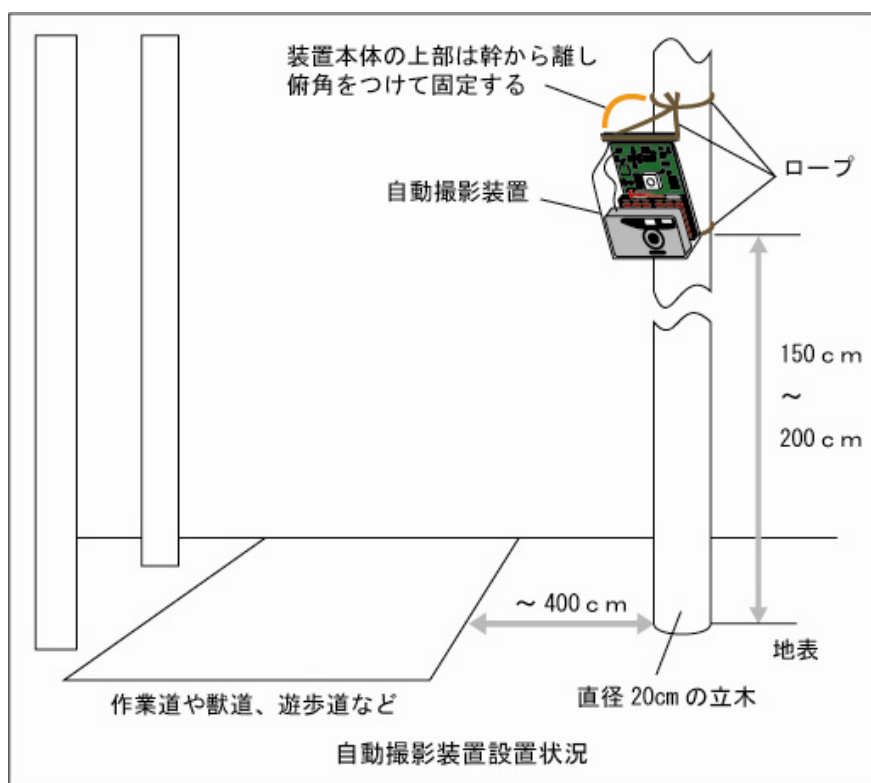
自動撮影装置（FC）: Yoysot（フィルム式）について

施工方法	敷地面積	1箇所につき 約0.0422 m ² 自動撮影装置：0.0106 m ² （幅 18cm × 奥行 6cm） ロープを固定する立木：0.0314 m ² （（径 20cm / 2） ² × ）
	規模	設置地点数： 5箇所 自動撮影装置：幅 18cm、高さ 16cm、幅 6cm 固定用ロープ：径 3mm、1箇所につき 3本 立木：現地の直径 20cm 程度のものを利用
	構造	カメラ本体および、赤外線センサーをビニル袋に収納し、密封クリップで封をしたもの。装置の上下部に貼り付けた2本のロープと、別の1本のロープを使用して、直径 20cm 程度の立木の幹に、高さ 150cm ~ 200cm 位の位置で固定する。
	主要材料	カメラ：プラスチック、金属 赤外線センサー：プラスチック、金属 ロープ：ポリエステル
	外部の仕上げ及び色彩	カメラ：灰色 赤外線センサー：黒色、濃い緑色
	関連行為の概要	なし
施工後の取扱	定期的（2週間に1回程度）に、現地にて設置状況を点検し、フィルムの回収を行う。調査終了後にすべての設置物の撤去・搬出を行い、跡地の整理を行う。	
備考		

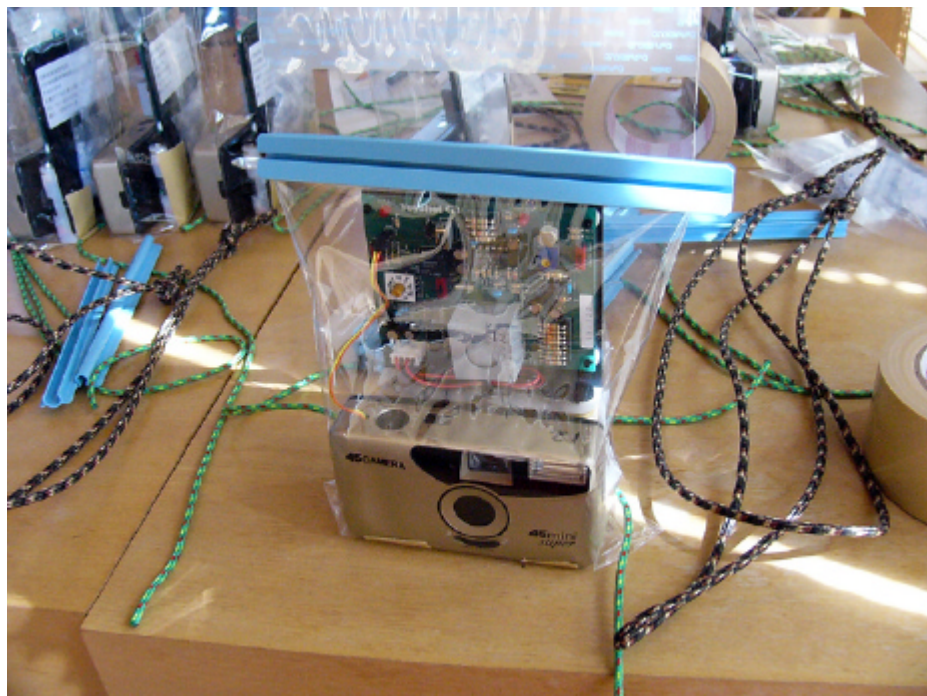
自動撮影装置（FC）の形状



自動撮影装置（FC）の設置方法



自動撮影装置（FC）の形状及び設置の様子（写真1）

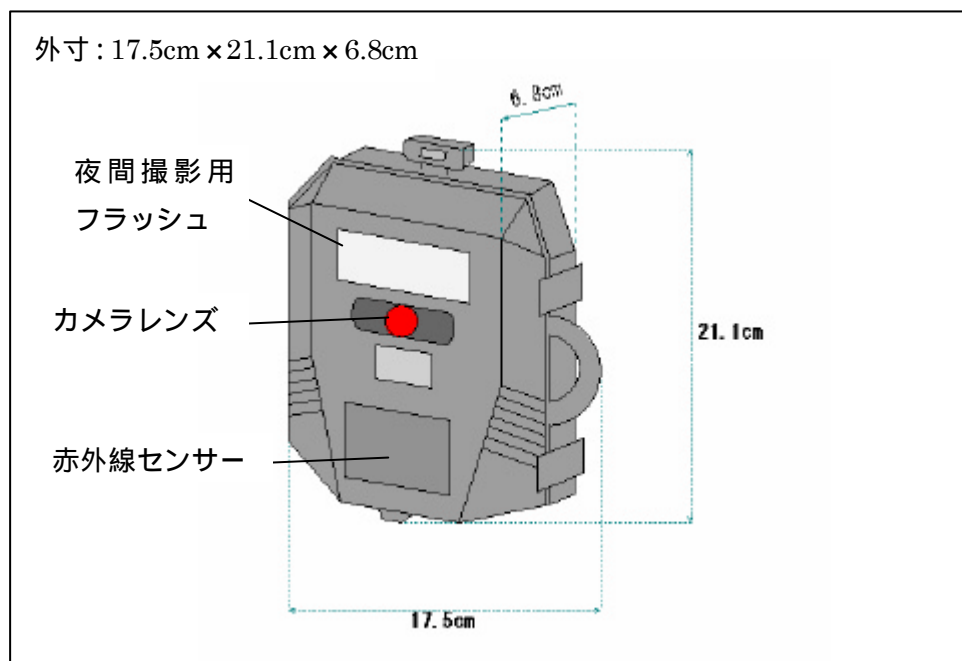




自動撮影装置 (DC) : PROWLER HD (デジタルカメラ) について

施工方法	敷地面積	1箇所につき 約 0.0433 m ² 自動撮影装置 : 0.0119 m ² (幅 17.5cm × 奥行 6.8cm) ロープを固定する立木 : 0.0314 m ² ((径 20cm / 2) ² ×)
	規模	設置地点数 : 9箇所 (各地区 3箇所) 自動撮影装置 : 幅 17.5cm、高さ 21.1cm、幅 6.8cm 固定用ベルト : 径 38mm、1箇所につき 1本 立木 : 現地の直径 20cm 程度のものを利用
	構造	カメラ本体には、赤外線センサー夜間撮影用のフラッシュ (人の目では光は感知できない) が設置されている。カメラの中央部に付けられた 38mm のベルトによって、直径 20cm 程度の立木の幹に、高さ 150cm ~ 200cm 位の位置で固定する。
	主要材料	カメラ : プラスチック、金属 赤外線センサー : プラスチック、金属 ベルト : ポリエステル
	外部の仕上げ及び色彩	カメラ : 黒色 赤外線センサー : 黒色 夜間撮影用のフラッシュ : 白色
	関連行為の概要	なし
施工後の取扱	定期的 (2週間に 1回程度) に、現地にて設置状況を点検し、フィルムの回収を行う。調査終了後にすべての設置物の撤去・搬出を行い、跡地の整理を行う。	
備考		

自動撮影装置（DC）の形状（設置方法や上記の Yoysot と同様）



自動撮影装置の形状（DC）（写真）



自動撮影装置（DC）の設置の様子（写真2）



5 - 2 使用した特殊ソフト

GIS と ESRI 社製 GIS ソフトウェア (Arc GIS) について

ESRI Japan HP(<http://www.esri.com/index.html>)より引用、一部改変

・ GIS

GIS とは、Geographic Information System の略で、「ジー・アイ・エス」または地理情報システムと呼ばれている（地図情報システムと呼ばれることもあります）。狭義には「地理情報（位置に関連づけられた様々な情報）を作成、加工、管理、分析、可視化、共有するための情報技術（IT）」を意味するが、広義には、人材、データ、作業フロー、ハードウェア、ソフトウェアを構成要素とする地理的課題解決アプローチを総称して GIS と呼ぶ場合もある。「地理的課題解決アプローチ」とは、地理学が IT 化されたもので、人工衛星、現地踏査などから得られたデータを、空間、時間の面から分析・編集することで、科学的調査、土地、施設や道路などの地理情報の管理、都市計画などに利用されている。

・ ESRI 社製 GIS ソフトウェア (ArcGIS)

Esri 社の ArcGIS は、GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) ソフトウェア ファミリーの総称である。

デスクトップ、サーバ、モバイルに、クラウドを加えた幅広い環境で利用可能な GIS ソフトウェアと、すぐに利用可能なデータ製品から構成され、単体での利用から任意の組み合わせによるシステムの構築まで、機能要件、システム規模、コストに応じた柔軟な選択をすること可能である。ArcGIS は、地理・位置情報や画像を統合して、状況把握・分析、情報伝達を行ううえで、有益なソフトウェアの一つである。

現在、最新のバージョンは Arc GIS10 であるが、本業務で使用したのは ArcGIS9.3.1 および ArcGIS3.1 である。